

## 令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 8年 3月 11日

札幌市立屯田西小学校

## 1 本年度の重点目標

あいさつと笑顔あふれる学校 ～ よさを見つけあこがれあう仲間 ～

## 2 本年度の経営方針

多様な子どもたちの多様な成長を支える

- 学ぶ力の育成 … 「自ら学ぶ子」を育む授業 ・ 授業研究の推進 ・ 教材の充実
- 豊かな心の育成 … 「考え、議論する道徳」の授業 ・ 心を揺さぶる体験活動 ・ 命を大切にする指導の充実
- 健やかな体の育成 … 自ら進んで運動に親しむ指導 ・ 休み時間等の体育的活動の充実 ・ 健康的な生活習慣

## 3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
「学ぶ力」の育成	・課題解決に向かって主体的に取り組む学習活動を充実させる。また、そのための考える基礎になる知識・技能を身に付けさせる。	B	・課題解決に向かって主体的に取り組むためには、基礎になる知識・技能を身に付けていることが前提となる。読み・書き・計算などの基礎的な知識・技能の定着には、反復と継続が欠かせない。朝の15分間を基礎的な学力向上のための時間として、学校全体でカリキュラムを計画し、運営していく。その際、定期的に、子どもの実態を振り返りつつ、学習内容を見直していく。	A	A
	・他者の考えを理解して、自分の考えを発展させる指導を充実させる。	B	・指導の充実のためには、話すこと聞くことといった学びの基本的な学習習慣が必要である。学習の時間はもとより、様々な教育活動で大切にしていきたい	A	A
	・ICT等を活用した学習活動を充実させるとともに、情報を適切に活用する力を身に付けさせる。	B	・タブレット PC を課題探究的な学習の課題解決の過程で活用を継続することで学びの質を高めていく。また、情報モラルに関する指導の充実も同時に行っていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	・昔から「読み・書き・そろばん」と言われるように、子どもの教育では、こういう基本が大切。朝の15分の学習で取り組むことは、そのような意味でも適切な取組だと思います。				
「豊かな心」の育成	・「他者を思いやる気持ちや温かな人間関係を支えるコミュニケーション力の充実を図る。	B	・「他者を思いやる気持ち」を育むために「あいさつの習得」「時間やきまりを守って生活する」といった日常と非日常の教育活動の充実を図る。非日常の教育活動では特に運動会の内容の改善を図る。団体競技を新たに取り入れることで「団結する力」や「協力する気持ち」を育てていく。	A	A
	・いじめの防止と早期発見・対処の取組を積極的に行い、命を大切にする心を育てる。	B	・学校のいじめ対策基本方針に則って、定期的にいじめ対策会議を開き、組織的にいじめ対応に取り組んできた。「いじめは起こるもの」という前提にたつて、積極的認知・情報共有・組織対応を継続していく。また、学年内担任の積極的な導入を図ることで、複数の眼で児童理解を進めていくことを常態化していく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	・「自ら進んで挨拶をしている」というアンケートの結果において、8割以上の児童が肯定的な回答をしているのは注目すべき点です。地域の大人として見守っていききたい。 ・いじめに関して、昨年よりも、更に適切に対応していることが分かりました。				
「健やかな体」の育成	・体力・運動能力を向上させるための手だてを工夫し、自ら進んで運動に親しむ子を育てる。	A	・「進んで体を動かして運動や遊びをしている」では、肯定的な回答が今年度も高かった。冬季においても、多くの児童が外で活動を行っているのは、本校の強みといえる。今後も運動する空間と時間の確保を継続していく。	A	A
	・健康的な生活習慣を身に付け、指導を充実させる。	B	・「健やかな体」育成プログラムに基づき、体育の授業の充実を図っていく。 ・基本的な生活習慣づくりの推進のために、家庭とも連携をとりながら学級指導を行っていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	・8割以上の児童が、運動をしているという項目に肯定的な回答をしているというのは、心身の健康維持という観点からも継続してほしいと思います。 ・放課後、公園で遊んでいる様子が見られる。ゲームじゃない遊具を使った遊び、冬にはそり滑りなど、体を使った遊びをしているのが良いと思います。				
社会に開かれた	教育方針や教育活動について保護者や地域に発信する。	B	・限られた日程の中で、参観の回数を増やしていく。保護者の方々と直接顔を合わせる機会を更に増やすことで、教育活動を発信し、理解と協力を得ていく。	A	A

(様式2)

	地域や保護者と連携・協力して子どもの育成に努める。	B	・「すぐる」を活用した情報発信は、迅速かつ正確な情報伝達のツールとして定着してきた。冬期間の悪天候による急な臨時休校でも、大きな混乱なく対応を終えることができた。 ・「すぐる」を軸としたデジタルでの発信と参観・懇談等を軸とした対面での発信の両面を充実していく。	A	A
学校関係者評価委員会による意見	・学校・地域・保護者の連携に関し、9割以上の保護者から肯定的な回答がありました。それは、冬季の大雪の際などの学校からの情報発信が、迅速かつ正確であったため、このような回答につながったのだと思います。 ・顔が見えない者同士だと、言葉がきつくなることがあります。参観の回数を増やすことで、大人同士の関係性が、より親密になることが、ひいては子ども同士の関係作りに良い影響を与えていると思います。				